

令和5年7月20日

国立大学法人電気通信大学長
田 野 俊 一 殿

国立大学法人電気通信大学
学長選考・監察会議
議 長 小 間 篤

学長業績評価結果について

国立大学法人電気通信大学学長選考・監察会議規程第4条第4号の規定により実施した学長業績評価の結果について、下記のとおり通知いたします。

記

1. 評価期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日
2. 評価結果

貴職は、「UEC ビジョン～beyond2020～」(令和3年7月制定)(以下「ビジョン」という。)をもとに、本学が目指す社会像である「共創進化スマート社会」の実現に向けたミッションステートメントを「アクションプラン」として明確にして、「D.C. & I. 戦略」に基づいた経営判断や様々な取組みを進めている。

第4期中期目標・中期計画期間の初年度である令和4年度においては、あらかじめ定めた年度計画を踏まえた着実な業務運営が行われている。特に、入試改革を進めて一般選抜前期日程での類別入試を実施(大括り入試を発展的廃止)したことと併せて2学期4ターム並立制などの教育カリキュラムを改善したこと、令和5年度にデザイン思考・データサイエンスプログラムを設置すること、並びに「共創進化型イノベーション・commons キャンパスマスタープラン2022」を策定し、本学の目指すキャンパスの方向性を示したことなど、ビジョンに掲げた教育・研究活動等に係る取組みに関して、学長としてのリーダーシップを発揮し、翌年度以降の実施へと繋げる成果を上げていると認められる。

さらに、共創進化スマート社会(大学・人材)の概念については、定期的な「学長ト

ーク」の開催や参加学生の幅を広げた「学生と学長の懇談会」といった機会を通じて、学生、教職員等のステークホルダーから要望を聴取しつつ、当該概念の共有を積極的に進めており、ビジョンの実現に向けて、対話（コミュニケーション）と自らの説明・情報発信に努めていることは評価できる。

なお、ダイバーシティ（多様性）の推進については、体制の強化・見直しを行い、本学の状況の把握・分析を進めており、さらなる国際化の強化や社会人学生比率向上の取組みとともに、女性教員・女性教授職の割合増加に資する研究環境改善など、女性活躍に繋がる適切かつ着実な取組みを期待する。